

新基地建設反対名護共同センターニュース

沖縄を米中衝突の“捨て石”にするな！



新婦人の会のメンバーが「この島に戦争の足音が聞こえる。生き物が死に、人の心が壊され、人の絆が壊される。私は叫ぶ、戦争は嫌だ」と声をそろえてアピールしました。写真はガンバロー三唱する参加者（提供：「しんぶん赤旗」）

統一連の新垣繁信代表幹事が「岸田内閣は戦争する国造りをしていく。全ての県民が立ち上がり、声を上げていこう」と呼びかけ、共同センターの仲山忠克弁護士は「台湾有事となれば沖縄の米軍基地が最前線になる。憲法9条が求めるのは外交努力による平和だ」と訴えました。渡久地修県議や県労連、県民医連、新婦人、県平和委の代表らも3文書反対を訴えました。

憲法9条が求めるのは外交努力による平和
県統一連と憲法共同センターが安保3文書抗議集会

「住民説明会での約束が履行されない 工事は中止すべきだ！」

ヘリ基地反対協が防衛局に申し入れ

ヘリ基地反対協の仲村善幸共同代表らは20日、沖縄防衛局を訪れ新基地工事中止を求めました。本部島ぐるみ会議の原田みき子さんは、「塩川港からの搬出に関する2017年の防衛局の事前説明会では、1日に10トンプ160台相当の石材を運搬するとの説明に反し、現在一日10トンプが多い時で900台の赤土を運んでいる」と指摘。「約束が守れず、説明もできない工事は中止すべきだ」と抗議しました。また代表はキャンプ・シュワブで防衛局員が座り込む県民に騒音で妨害をする問題、美謝川切替工事での六価クロム発生問題を提起しました。終了後、代表は支援者と防衛局前で抗議の声を上げました。



浦添西海岸を軍港から守ろう

「浦添西海岸の未来を考える会」は18日、浦添市内で自然豊かな浦添西海岸を守るためのシンポジウムを開催しました（写真）。西銘純恵県議（共）が那覇軍港の浦添移設の経緯と米軍の狙い、新軍港の問題点を指摘し、「埋め立てストップ、軍港つくらせない」という闘いが勝利につながると報告。亀山統一琉球大助教が「新軍港は安保3文書の下で敵基地を攻撃できる軍港建設になる」と警鐘を鳴らしました。



お知らせ

●「請願署名実行委員会結成集会」を開催します。

日時/2023年1月7日(土)
午前11時~12時

場所/辺野古ゲート前
主催/オール沖縄会議

※県民総がかりの署名運動を盛り上げるため多くの皆さんの参加をお願いします。※集会前後の抗議集会は行いません。

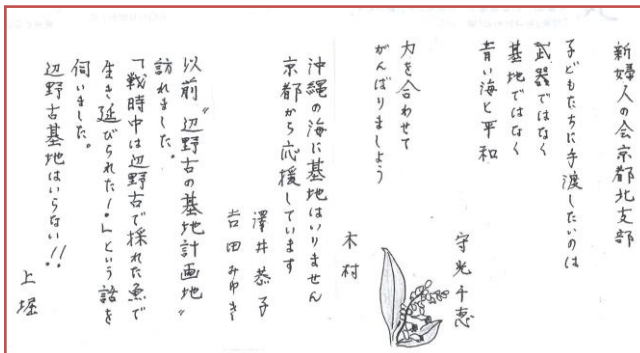
●1月1日恒例の辺野古の浜での「初興し」は中止です。
※コロナ感染症第8波の影響を避けるためです。

当ニュースは今年の最終号です。
1年間のご愛読ありがとうございました。次号は1月11日発行予定です。

安里島ぐるみの会が267回目のスタンディング



写真上右は、スタンディングの後、交流する参加者。写真上左は矢木さん。右は託されたメッセージの一部。



京都から駆け付けた人も
毎月曜日朝の那覇市内の安里・大道・松川島ぐるみの会のスタンディングは、12月19日第267回目を迎えました。参加者は、最高齢者で書道家の儀間昭男先生(97歳)はじめ21名でした。この日、京都から参加された矢木小夜子さんが、沖縄問題で頑張っていた旦那さんが2年前に亡くなられたとのことでその遺影を胸に参加されました。そして、京都の仲間たちから託された28人のメッセージを配布してくれました。これまでも、東京や大阪などからの参加もありますが、移住して定住された方も、ずーと参加してくれています。(通信・真栄里泰山さん)